

透析困難症に対する前希釈 On-line HDF の有効であった症例

医療法人社団 三思会 東邦病院 ME 科

○星野晴香 久保田紗織 若林悟 大澤佑介 宮本邦生

坂田賢一 村上寿子 佐野浩之 松本理恵 小川浩司

松村昌樹

腎臓透析センター

吉田弘明 小林さつき 松本孝之 坂本龍彦 植木嘉衛

【目的】

透析医療の進歩により透析期間の長期化・透析患者の高齢化・合併症などによる透析中の循環動態の低下が問題となっている。透析困難であった症例に対して前希釈 On-line HDF の有効性を検討した。

【対象】

慢性維持透析中の 83 歳の男性

原疾患、NIDDM 血液透析導入 H15 年 5 月

既往歴、前立腺癌、脳梗塞、右大腿骨頸部骨折、坐骨骨折、DM あり

【方法】

ニプロ社製 NCV-2i を使用し HD から高 NaHD、さらに前希釈 On-line HDF (置換液量 6L/h) に変更した。透析開始、開始直後、15 分後、30 分後、1 時間後、2 時間後、3 時間後、終了直前、終了後の収縮期血圧、拡張血圧、脈拍を測定し HD・高 NaHD・前希釈 On-line HDF でそれぞれ比較した。また総除水量、月 1 回血清アルブミン値と心胸比、透析中の血圧低下による処置回数を比較した。

	ダイアライザー・ヘモダイアフィルター	透析液
HD	RENAK PS-1.0	キンダリー4E
高 NaHD	RENAK PS-1.0	キンダリー4E
前希釈 On-line HDF	MFX-11Eeco	キンダリー4E

【結果】

収縮期血圧、拡張血圧において高 NaHD が最も安定していたが、総除水量が増加傾向にあった。

前希釈 On-line HDF では収縮期血圧、拡張血圧が安定し透析中の血圧低下による処置回数も低下した。

月 1 回血清アルブミン値と心胸比において HD・高 NaHD・前希釈 On-line HDF の変化はみられなかった。

【考察】

高 NaHD において透析困難での症例は有効であるといえるが、口渇の訴えや総除水量の増加傾向がみられたため患者への。前希釈 On-line HDF では比較的血圧が下がりにくくなる効果が期待でき、さらに口渇訴えや総除水量が増加傾向もないため、患者の負担も少なく QOF の向上に繋がると考える。今後は透析時間、置換液量などを含めた最適な条件を検討したい。